完全極点図測定システムデータの透過極点図、反射極点図を分離する

 $\label{eq:conservate} \mbox{PFTransRefrectionSeparate} \ (\mbox{PFTRSeparate}) \\ \mbox{Ver1.05M}$

2016年09月09日



HelperTex Office

http://www.geocities.jp/helpertex2

初版	2013/05/29	全自動完全極点図の透過、反射分離ソフト
Ver1.01Y	2013/05/29	全自動および、手動切り替え透過、反射極点図分離ソフト
* Version 1.02	2014/04/23	2050/HP のASCデータ対応
* Version 1.03	2014/06/05	stdlib.FileRead() EOF 前に ASC 以外のコード対策
* Version 1.04	2014/10/24	正極点で読めなかった修正

概要

従来ODF解析では複数の完全極点図が必要であり、自動で複数の完全極点図を測定するシステムも使われていた。しかし、ODF解析に不完全極点図からでも解析出来るようになり、高価な完全極点図を測定するシステムは、販売されていない。

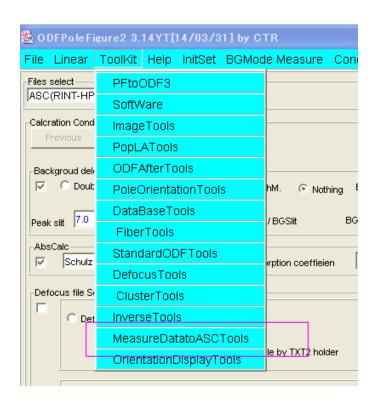
このような状況から、複数の反射極点図、あるいは複数の透過極点図からODF解析が行われている。 極点図のデータ処理も、透過極点図と反射極点図は別々の解析を行い、必要なら、データ処理が行われた 透過極点図と反射極点図の結合する方法に変わっている。

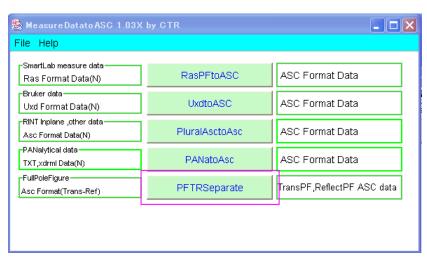
しかし、完全極点図も処理できる様、予め、透過極点図と反射極点図に分離するソフトウエアを作成した。

ソフトウエアの起動

C:\text{\text{YCTR\text{Y}}} bin\text{\text{YPFTRS}} eparate.jar をダブルクリック

ODFPoleFigure2 ソフトウエアの ToolKit->MeasureDatatoASCTools>PFTRSeparate





ソフトウエアの機能

複数の完全極点図(ASC)ファイルを選択
Path とファイル名が表示される。

Separate

Separate

選択されたPathにSEPARATEホルダーを作成し、分離したファイルが書き出される。

ワークステーションデータ

ASCII ファイルがフロッピーディスク書き込む

透過極点図と反射極点図を分離する

📾 Q100.27A	34 KB 27A ファイル	2013/05/28 16:31
📷 Q110.39A	35 KB 39A ファイル	2013/05/28 16:31
<u>ढ</u> Q211.30A	34 KB 30A ファイル	2013/05/28 16:31

ファイル名と拡張子を変更

ファイル名は、指数とし、拡張子は".ASC"とする。

्र)100Q.ASC	34 KB	RINT2000アスキー	2013/05/28 16:31
्रो 110Q.ASC	35 KB	RINT2000アスキー	2013/05/28 16:31
च्ये 211Q.ASC	34 KB	RINT2000アスキー	2013/05/28 16:31

ファイル名の先頭に指数に変更

Windows データ

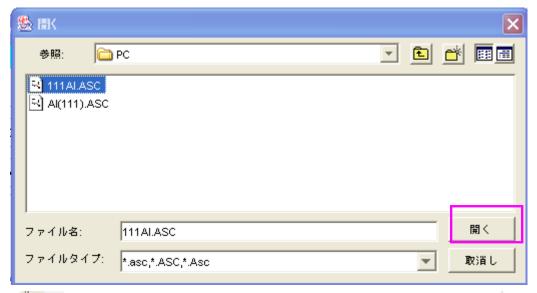
測定データ*.pol をASCII変換ソフトを用いて*.ASCに変換

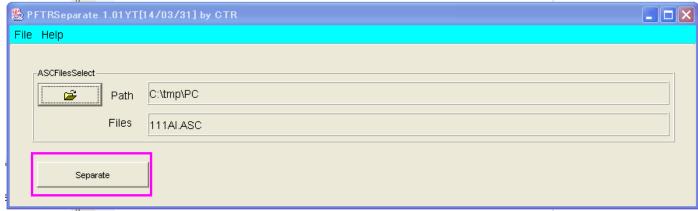
(111).ASC	74 KB RINT2000アスキー	2013/05/29 8:57
ファイル名の先頭に指数に変更		
ह्यो 111 ALASC	74 KB RINT2000アスキー	2013/05/29 8:57

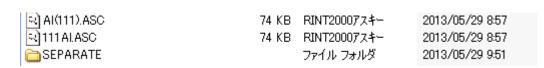
データの変換



複数の ASC ファイルも選択可能







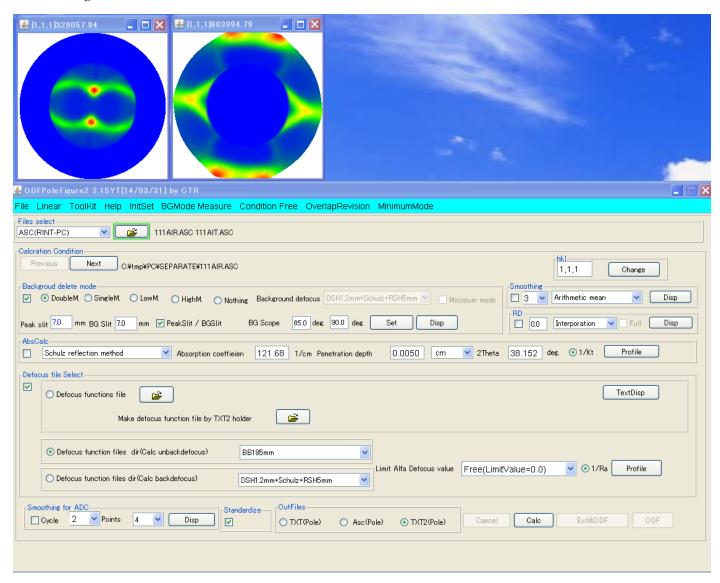
新しいホルダーSEPARATE 以下に分離した極点図が作成される。



ファイル名に T付きは、透過極点図, R付きは、反射極点図

透過極点図と反射極点図が別々に測定されたのと同じデータが作成される。

ODFPoleFigure2 ソフトウエアで読み込み表示



データ処理は、透過法と反射法は同時に出来ません。